

## 総論

満点	100点	目標得点	80点	試験時間	60分	偏差値	A:69 B:72
大問数	3	小問数	62 (解答数 66)				
【解答形式】		選択式	48/62問	記述式	11/62問	論述式	3/62問
【問題難易度】		C	5/62問	B	34/62問	A	23/62問

※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す

## Topics

- 1：全大問の共通テーマとしてラテンアメリカの地図が出題されている。
- 2：一般的に問題は易化している。ケアレスマスが命取りとなる。
- 3：ただし、受験生の手には負えない難問も出題されている。

## こんな力が求められる！

空欄補充問題が多いが、単なる一問一答では対応できない。解答として求められている事項はお茶ゼミのテキストで十分に合格点を取れる。講義を受けるだけでなく、復習、特に問題演習を実践できているかが重要。

## 参考図書

お茶ゼミテキスト、お茶ゼミ問題集、教科書、用語集、史料集・図説（地図が記載されているもの）

## データ&amp;全体傾向

〔A方式〕

前年度(2008)合格者最低点（英語・地理歴史・数学）…246点（得点率61.5%）

前年度(2008)受験者平均点（地理歴史）…62.85（統計処理後）

〔B方式〕

前年度(2008)合格者最低点（英語・地理歴史・論文テスト）…290点（得点率72.5%）

前年度(2008)受験者平均点（地理歴史）…62.85（統計処理後）

一般的に易化の傾向が著しい。慶應義塾大学の他学部の世界史の問題と比較しても、商学部の問題は易しめである。またリード文も、他学部に比べて手が込んでいたという印象はうすい。論述の文字数も前年度よりも減少しており、高得点が狙える一方で、マークミスを始めとするつまらない間違いが合否を分けることになるだろう。また論述は文字数が減少したとはいっても、書かせる内容は高度であり、これは逆に考えれば、高得点を取れる受験生は少ないということになる。解答可能な問題と、無理な問題を明確に区別すること。お茶ゼミの世界史の授業を休まずに受講し、しっかりと問題演習を中心とした学習法を確立していれば、商学部の世界史は恐れるに足らない。

## 大 問 別 分 析

【 I 】

予想配点 33 / 100 点	時間配分の目安 25 / 60 分
出題分野・テーマ 欧米諸国の対外進出 (18 世紀後半～20 世紀初頭)	
使用されている資料 地図	
出題形式 選択・記述・論述 (25 字×2、20 字×1)	

### ●内容分析 (小問別難易度&お茶ゼミカリキュラムとの関連&学習対策など)

問1の空欄補充が13題。問2が10題で、こちらは1題2点と思われる。

○A：正答すべき問題 (×9) 問1 (1) (2)・(3) (4)・(7) (8)・(11) (12)・(15) (16)・(17)  
(18)・(19) (20)・(23) (24)・(25) (26)

○B：合否を分ける問題 (×7)

問1

- (5) (6) …「海軍力に勝る」ということは、海に囲まれている国だということに気付けるか。教科書には明確に出ているわけではないので、発想力が求められる。
- (9) (10) …すぐに正解の「東方問題」が思いつかなくても、選択肢を消去法でつぶしていけば、解答できるだろう。慶應義塾大学の問題では、消去法が大いに効力を発揮することを知っておくとよい。
- (13) (14) …これも入りそうな語句はいくつか考えられるので、選択肢で最終的に決定するとよい。初代大統領ワシントン以来の中立外交が孤立外交へとなっていく。
- (21) (22) …アフリカ植民地分割の原則を定めた会議という部分をヒントに考える。ベルリン会議は露土戦争後のサン=ステファノ条約を破棄したものが知られるが、ビスマルクの主催でアフリカ分割協定を定めたものも開催されている。きちんと区別できていれば、とくに難解でもない。著名な都市では複数回の国際会議が開催されているし、同名の条約もある。暗記だけでなく、知識の整理ができていないかが大切である。

問2

- (2) …「テノチティトランを首都とする王国」とはアステカ王国。メキシコ高原に存在し、1521年にコルテスによって滅ぼされた。地図問題だが、これはできて欲しい。
- (5) …ハワイ、グアム、フィリピンから二つ答えればよい。あわてて一つしか選ばないというような、ケアレスミスさえしなければ完答が期待される。
- (6) …20字という少ない文字数が逆にまとめづらいかもしれない。普段から論述に慣れていればそれほど苦労しないのではないか。

○C：難問 (×4)

問2

- (1) …機械輸出禁止法は1774年に制定され、1825年に一部解除、1843年に廃止されている。設問として輸出の一部解禁の時期をきいてくるのは難解である。産業革命とは機械の発明・利用だということに気付くと、説明問題なので答えにたどり着きやすいかもしれないが、大半の受験生はできないであろう、研究者レベルでの設問である。
- (3) …ウルグアイの国名は知っているも、場所はなかなか分からないだろう。普段から地図を見ていないと苦しい。
- (4) …受験レベルではラテンアメリカ独立運動との関連が指摘できればよい。ロシアの動向については難しい。
- (7) …「先占権」はできて欲しいが、「実効支配」は用語集にも出てこないのが難しい。(4)も(7)も研究者レベルの内容であり、完答できた受験生は皆無に近いのではないか。

## 【Ⅱ】

予想配点 33 / 100 点	時間配分の目安 23 / 60 分
出題分野・テーマ ジャガイモとサツマイモの歴史	
使用されている資料 地図	
出題形式 選択・記述・論述 (15 字)	

### ●内容分析 (小問別難易度&お茶ゼミカリキュラムとの関連&学習対策など)

大問Ⅰと同様に問1は全て空欄補充で、一問一点。問2の記述式が各2点であろう。

○A：正答すべき問題 (×8) 問1 (45) (46)・(57) (58)・(59) (60)

問2 (1) (5) (6) (7) (9)

○B：合否を分ける問題 (×17)

#### 問1

- (29) (30) …後期印象派の画家で、かつオランダの人ではゴッホのみしかいない。作品の名前を知らなくても大丈夫。
- (31) (32) …この飢饉の影響が穀物法廃止の一因となったことや、アメリカ大陸への移民の増加につながったこととあわせて知っておくこと。
- (33) (34) …羅針盤はルネサンスの三大発明の一つであるから、それより以前の中国の王朝を考えればよい。
- (35) (36) …コロンブスによる新大陸発見の背景を思い出すこと。
- (37) (38) …新大陸の銀山で最も有名な物であるから、答えられるようにはしたい。
- (39) (40) …直後に「価格革命」という言葉がある。銀の総量が増えれば、価値はどうなるか、需要と供給の関係を理解していれば問題はない。暗記だけに頼ってしまうと、このような問題は思い込みによって間違えてしまうから注意すること。
- (41) (42) …太平洋を横断して新大陸とアジアの間を結ぶ貿易をアカプルコ貿易というのはこの港町のため。アカプルコはメキシコにある。近年、交易をテーマにした出題が増加傾向にある。これはその典型。
- (43) (44) …1571年はスペインにとってはレパントの海戦に勝利した重要な年。フィリピンのマニラの完成が同年であるという形で押さえておく。
- (47) (48) …ジャカルタの旧称はバタヴィア。オランダの建設だとわかれば、楽勝だろう。
- (49) (50) …「流域」とくれば川、その後に出てくることわざからも推測可能。限りなく易に近い問題。
- (51) (52) …宋代の「江浙熟すれば天下足る」との区別は頻出。素直に勉強していれば、点を取りこぼすことはない。日頃の問題演習がものをいう。
- (53) (54)・(55) (56) …ともに客商と総称される遠隔地商人であり、全国的に活躍したため出身地で区別された。問題の作り方に難がある。

#### 問2

- (2) …これも地図を手元において学習していれば、点が取れる。
- (3) …近年、出題頻度があがっている。インディオの迫害を非難したという点で答えられるように。
- (4) …社会経済的な問題なので、暗記中心の勉強をしていたら取りこぼすだろう。封建制の崩壊は前期にまとめているので、後期からの受講者にはきついかもしれない。
- (10) …日明貿易(勘合貿易)は靖難の役直後、つまり永楽帝の即位直後から開始される。足利義満に対して「日本国王」の称号が与えられたため、その日本側の主導者は足利義満である。しかし、実際には義満は1394年に將軍職を辞しており、当時の征夷大將軍は正確には第4代の足利義持である。ただし足利義持が正解では世界史選択者はできないだろう。問題は「当時の將軍の名前」とあるので、作問の仕方が雑というべきであろう。

○C：難問 (×1)

#### 問2

# Benesse® お茶の水ゼミナール

(8) …沖縄に関する設問は近年増加傾向にあるが、手がまわりにくい場所でもある。東アジアの貿易センターでもあるので、沖縄を統一した中山王国や日清に両属だった事実をおさえておくこと。

## 【Ⅲ】

予想配点 34 / 100 点	時間配分の目安 12 / 60 分
出題分野・テーマ 近現代欧米史雑題	
使用されている資料 地図	
出題形式 選択・記述	

### ●内容分析（小問別難易度&お茶ゼミカリキュラムとの関連&学習対策など）

一問一答形式が 16 問。うち二つ解答させる問題が一題あるので、つごう 17。難問などなく、非常に簡単な問題が多いので全問正解を狙えるし、本気で慶應に行きたいのなら全問正解をしないといけないくらいの気持ちでいること。全体のバランスを考えると、各 2 点となる。簡単だが配点が高めなので、ミスが命取りになる。

○A：正答すべき問題（×6） 問1・問3・問4・問6・問9・問11

○B：合否を分ける問題（×10）

問2…前期テキストに各国の産業革命の特徴がまとめられている。その文章がほぼそのまま出題されている。テキストを利用して復習していた人はガッツポーズが出たのではないかな。

問5…「世界最初の黒人共和国」だけなら易の問題だが、場所を選ばせるので標準問題とした。イスパニョーラ島の西部であり、東部はドミニカに当たる。島の位置関係まではわかっても、東西どちらかの区分ができていないと苦しいか。地図の大切さを実感して欲しい。

問7…夏期講習で扱う近代史はこの運動から始まる。章のタイトルとなるためにある意味、盲点となってしまう。細かい語句ばかりを追いかけて勉強していると、全体像を大きくとらえることをおろそかにしてしまいがちになる。お茶ゼミのテキストが一年間に2回繰り返すという構成になっているのは、まずは歴史を大づかみにとらえ、2回目で細かい事項にまで手を伸ばして欲しいからである。

問8…問7とも関連するが、19世紀前半の大きな流れを把握してあれば苦勞するものではない。細かい年号を覚えておくのではなく、ウィーン体制の成立→七月革命→二月革命という流れが分かっていたら、答えは導ける。

問10…三帝同盟はドイツ帝国、オーストリア=ハンガリー二重帝国、ロシア帝国による同盟。選択肢にはプロイセンとなっているが、おそらくドイツ帝国がプロイセンを中心とした連邦制をとっていたからという理由だろう。だが、これは不親切というよりも不適切な選択肢だろう。

問12…地図問題の中では簡単な部類だろう。北アメリカのフロリダ半島が記載されていれば、正答率が高まったかもしれない。

問13…単純に三国協定の成立過程が把握できているかだけの問題。これも年号ではなく流れで判断できるし、できるようにならないといけない。

問14…選択肢の全てを時代順にするとしたら、戸惑うかもしれないが、3番目だけを選べばよいのであるから、パリ講和会議の影響を受けた「4」を除いて、終戦時に一番近いものが正解となる。

問15…夏期講習で実施する文化史のテキストにて触れている。夏は近現代史と文化史を履修しなければならず、負担が大きいのが、慶應義塾大学では比較的文化的の出題頻度が高いので、少しずつでも着実に抑えておくこと。特に夏期講習の文化史テキストは読み応えがあるので、折に触れて手にとって見るとよい。

問16…「第二次世界大戦後の秩序を示した」ということは、戦後世界の構想を示したということ。1941年に発表され、前述の条件に該当するのは「大西洋憲章」である。第一次世界大戦における「ウィルソンの十四カ条」と同じ役割を果たした。

○C：難問（×0）